

子ども・若者等からの意見聴取の取組状況

No.	対象者	意見を聴いた場面や方法等	主な意見（回答）の内容
1	特別支援学校を含めた小中高生とその保護者、未就学児の保護者	【子ども・保護者アンケート】 ・ウェブサイト上でのアンケートフォームへの回答 （調査期間：令和6年4月～5月） 《回答状況》 ・児童・生徒 1,219／2,017（回答率 60.4%） ・保護者 1,239／3,085（回答率 40.2%）	・別添1、2のとおり
2	県内に居住する若者（おおむね18歳から39歳程度を想定）	【若者アンケート】 ・ウェブサイト上でのアンケートフォームへの回答 （調査期間：令和6年5月） 《回答者数》740名	・別添3のとおり
3	高校生	・6月26日に実施した出前講座の中で秋田県の長所や課題、要望について意見聴取	【秋田県の長所や課題、要望】 ・自然豊かなところが魅力で、過ごしやすい ・遊ぶところが少なく、友達同士で出かけるにも選択肢が少ない ・仕事が少ない ・秋田に大企業が少ないので、企業誘致を積極的に行う必要があるのではないか
4	保護者	・7月27日・28日に開催された子育てイベントで意見聴取を実施 《回答者数》127名	【子どもの遊び場に関する要望】 ・冬の遊び場が少ない、室内施設を増やして欲しい ・遊び場の情報収集が難しい ・各市町村に無料で遊べる施設があればいい ・遊具のある公園をもっと増やして欲しい
5	大学生	・県のインターンシップに参加した大学生（4名）から意見聴取を実施	【自由意見】 ・交通の便が悪い、学校までが遠い ・県外で生活していると就職情報などが少ない。県外大学との連携を深める ・中学校になると大人の関わり、支援が少なくなる ・小学生が遊べる遊具のある公園が少ない ・学童にいていない子どもの居場所が少ない ・学力の差があってもサポートが少ない ・大規模校と小規模校で差を感じる。学校の交流を進める ・ふるさとの愛着形成とあるが、秋田の自然豊かなどは知られているが子育てしやすい環境が整っているなどの情報は知られていない ・県南出身であるが、やりたいスポーツと学業を両立できる学校の選択しが少ないので、県外を選択しなければいけない ・大学生を活用する仕組み。情報発信力の活用

No.	対象者	意見を聴いた場面や方法等	主な意見（回答）の内容
6	無業の若者、 不登校中学生 の保護者	・引きこもりや不登校の方の支援の場（20～50代：4名、保護者：3名、実施箇所：2か所）	【支援の場に来るきっかけ】 ・知り合いからの勧め ・新聞記事やチラシを見て連絡した 【自由意見】 ・誰かと交流したい、つながりたいという思いで来ている ・地元以外の「居場所」も複数あってもいい ・同じような年代が集まる場所のほうが、参加させやすい（保護者） ・学びの多様化学校が設置されることに期待している（保護者）
7	小中高生	・ジェンダーギャップ解消に向けたワークショップで意見聴取を実施（小学生7名、中学生6名、高校生7名、実施箇所：2か所）	【子どもから意見聴取を行う場面や環境】 ・知らない大人がいる所では、緊張して話ができない ・友達や家族と一緒に参加しやすい ・自分たちの話を大人がきちんと聴いてくれる環境が必要 ・参加者がお互いの意見を否定しない環境であれば話しやすい ・ファシリテーターがいると話しやすい ・オンラインを積極的に活用すべき ・アンケート調査の項目が多いと気が失せる
8	秋田県内に在住する、または秋田県出身の子ども・若者（40歳未満）	【子ども・若者意見箱】 ・ウェブサイト上に子ども・若者が、秋田県に対して自由に意見を表明することができる意見箱を10月から設置	【自由意見】 ・将来に希望がある子どもに税金を使ってほしい（30代） ・保育料を全市町村一律で無償にしてほしい（30代） ・（中学校の）総合テストを1日ではなく2日に分けて実施してほしい（中学生） ・土日に就業相談できる窓口がほしい（30代） ・新生児のお子さんがいるお母さんを、子育てが落ち着いたお母さんがサポートしてあげられるような制度があったらいい（30代） ・秋田県は産後ケア施設が極端に少ないため、ワンオペで疲れているお母さんや子育てに辛さを感じているお母さんの相談・お手伝いなどのボランティアができれば良い（30代） ・学校現場では定時以降は基本的に学校の電話が繋がらないよう、先生方の負担にならないよう配慮すべき。親だけでなく先生側にも負担のない教育現場を目指してほしい（30代） ・学校内や友人関係内で、様々なトラブル（先生の不正や問題行動・友達の犯罪）など、知り得た事を伝える場がない。学校・教育機関・警察に話しても真面目に取り入れようとしてくれないので、どんな些細な情報でも聞き入れて調べてくれる機関があると良い（中学生） ・山形「くるんと」、仙台「感性の森」など、子どもたちが屋内外とわず、走り回れて感性が育てられる大型遊び場の施設があったらいい（30代） ・観光客を呼び込むために施設やめずらしいものを作るより、そのお金を県民のために使ってほしい。例えば、町の道路整備、田舎に住んでいるお年寄りが使えるバスやタクシー、お店や名産品を作っている人に資金を援助したりなど（中学生） ・あちこちに空き家になったままの家があるので、それを壊したり整備したりする援助も必要。将来もっと老人が増えることがわかっているのだから、施設を増やしたり、施設に入る人がたくさんお金を払わなくてもいいように援助してほしい（中学生） ・学校でなかなか仲良くできなかったり給食が多くて全部食べなくて毎日残してしまいます。冬にカイロを持っていったらダメなのでとても毎日寒いです（小学生）